

第2回 港湾工事における設計段階からの新技術導入促進委員会
議事概要

日時：令和6年2月7日（水）15:00～17:00

場所：（一財）沿岸技術研究センター 会議室

出席者：善委員長、岩波委員、菊池委員、菅野委員、鈴木委員 他

1. 主な議事

- 事務局より、技術情報の応募結果について、報告を行った。
- 事務局より、技術カタログの公表・活用方針について、報告を行った。

2. 主な意見等

【技術情報の応募結果について】

- ・技術によっては、開発者への追加ヒアリング等を実施し、もう少し技術情報の内容を確認する必要があるのではないか。
- ・施工実績については、国内の港湾工事を対象とすべきであると考えられるが、該当しない実績も散見されるため、精査・再整理する必要があるのではないか。
- ・「栈橋上部工の施工作业効率化に資する技術」へ応募のあった技術の内、今回の“技術カタログ”の掲載対象とはならないが、港湾構造物の点検・診断・耐力評価システムとしては、有用な技術があったので、「港湾の施設の新しい点検技術カタログ」の更新の際に、技術情報を追加することを推奨してはどうか。
- ・「吸い出し防止対策に資する技術」へ応募のあった技術の内、従来の防砂板と同様の技術については、“技術カタログ”の掲載の対象外とする必要があるのではないか。
- ・「吸い出し防止対策に資する技術」については、防砂板の設計に関する概念が曖昧な点もあり、追加ヒアリング等の結果も考慮して、一部の技術テーマについては再応募することも念頭に置きながら“技術カタログ”として公表する内容を再検討してはどうか。

【技術カタログの公表・活用方針について】

- ・“技術カタログ”を公表する際に、開発段階等にあり留意が必要な技術については、留意事項等も掲載する必要があるのではないか。また、留意事項等を掲載する場合には、事前に応募者へ内容の確認する必要があるのではないか。
- ・“技術カタログ”に掲載された技術を採用する際の基本的な注意事項については、カタログの前書きに記載する必要があるのではないか。
- ・“技術カタログ”に掲載された技術は、設計者判断で選んでもらうということを示せば良いのではないかと。
- ・新しい技術をとりまとめるカタログであるので、呼称を“技術カタログ”ではなく、“新技術カタログ”としてはどうか。
- ・“技術カタログ”に掲載された情報をどのようにフォローアップしていくのか検討する必要があるのではないか。

以 上